

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500905		
法人名	社会福祉法人 大村福祉会		
事業所名	グループホーム泉の里(No1)		
所在地	長崎県大村市東本町583番地		
自己評価作成日	令和7年2月3日	外部評価結果確定日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JijyosyoCd=4270500905-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和7年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①特別養護老人ホーム、デイサービス、ヘルパー事業所と併設しており身体状況が低下した場合などは特養への移動がスムーズにできます。また入所までの待機の期間は有料老人ホームやショートステイの利用もできます。
 ②さまざまなボランティア団体の慰問があり毎月特養、デイサービス、グループホーム合同で誕生会を開催したり、校区の運動会に参加したり地域住民との交流を図っています。
 ③大村駅やバスターミナルに近い立地条件で見学や面会される方にとっては利便性が良い。
 ④ケアマネジャー2名、看護師2名、介護福祉士5名、と有資格者が多く認知症実践者研修や認知症リーダー研修などを受講した職員により、認知症の専門的ケアを行っています。
 ⑤看護師による健康管理を行い定期的なDr往診があり密な連携のもと看取りケアを行っています。

法人の規模が大きい故に様々な介護サービスを有していることや、様々な資格を持った職員が多く配置されていることで、お客様のご希望や心身の機能や状態に応じた介護サービスを提供できたり、様々な専門的見地から助言を形としてお客様の生活支援をサポートできている。
 法人として長く地元に根付いていることから地域との関わりが良好で、地域の行事を介してお客様や職員、地域住民の間で数多くの交流ができている。
 管理者等の上長と職員との風通しが良く、相談しやすい関係性が構築されている。この信頼関係が様々な職場環境の改善につながり、職員はお客様の支援や関わりに時間を多く使うことができる等好循環が生まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念として「その人らしく生き生きと」を掲げ職員間で共有している	理念の文言である「その人らしく生き生きと」の後に綴ってある「泉の里は我が家です」というフレーズが表しているように、入居後もご自宅での生活を可能な限り継続して送ることができるよう支援を行っている。その人らしい支援の考え方として「無理強い」をしない支援を第一に考えているとのことであった。また理念の具現化の一例としてご夫婦で入居しているお客様の事例を確認した。とても仲のいいご夫婦でいつも一緒にいたいというお二人の気持ちを汲んだ支援が実践されていた。職員間での理念の共有については毎月行っているセクション会議で振り返る機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事、町内運動会に職員、利用者、家族とともに参加し地域との交流を継続している。また月に1回折り紙教室に退職した職員が来てくれている。	新型コロナウイルス感染流行期にはできなかった町内の行事ができるようになってきた。特に地区で実施されている運動会は伝統と歴史があり、事業所の位置する地域の一大イベントとなっていて、お客様やご家族様、職員が地域住民の皆さんと一緒に参加して交流できるいい機会となっている。また、事業所内で実施される行事の際に地域のボランティア等が慰問に来ることも再開することができている。これからもコロナ禍以前のように交流を増やしていく方針であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のグランドゴルフやソフトボール大会、ソフトバレーボール大会を開催し地域の人へ向けて活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの質の向上に向けて意見交換を行っている。	集合型の会議を開催するようになって特に参加者の皆さんから活発な意見がでるようになってきているとのことである。会議の冒頭はお客様代表のお客様が開会の挨拶をしたり、地域代表の方からは行事の案内や地域で発生した出来事等の報告が随時挙がってくるとのこと、また会議でヒヤリハット報告の事例をいくつか報告した際、改善に向けて話し合う展開となり、最終的には確認する仕組みを作った事例を聞くことができた。このように会議で出てきた意見を皆で協議して、改善に向けた取組みにまで展開できている点は有益な取組みと言える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ふれあい相談の訪問を受けている。日頃から連絡を取り合い積極的に関係を構築していると思う。	日頃から行政機関とは介護保険制度の内容等の確認で連絡を取り、相談しやすい環境は整っている様子であった。また運営推進会議の場において市の担当者や地域包括支援センターの職員と定期的に会う機会があるため、情報交換できる状況にある。その他、ふれあい相談の訪問が市より定期的に来ている。お客様と話をして意見を外部に表出する機会を作っている。特に深刻な意見ではない限りフィードバックはないとのことであるが、今後もこの機会を継続して作っていく方針であった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を施設職員全員参加で実施、共有している。	事業所の職員が身体拘束等について正しい知識を習得するために、研修を法人全体として必ず2回は実施するようになっている。1回は法人全体で行い、2回目は事業所の所在するビル(2号館)全体で行っている。特徴的な取り組みとして同内容の研修を3日間開催することで職員が必ず参加する仕組みを作っている点を挙げる。伝達講習ではなく必ず職員が参加するという仕組みは法人の身体拘束廃止に向けた本気度が伺える。また職員が過労状態にならないようにAIセンサーを導入して仕事の効率化を図ったり、定期的にストレスチェックを行うことで未然に防ぐ取り組みも行っている。今後、より一層の徹底を図るために職員自ら定期的に支援内容を振り返る機会が効果的と考える。	身体拘束をしないための組織的取組や教育体系、ストレスケアの実践状況を確認することができた。今後、更に徹底する目的と、定期的な振り返りの機会は身体拘束や虐待の抑止力の1つとして期待できるため、虐待の芽チェックリスト等を活用して職員の振り返る機会を設けることが望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる言動になっていないか職員同士がお互いに注意し合える雰囲気にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるが個々の必要性を関係者で話し合ったり活用できる場が今のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点には丁寧に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡等でも意見や要望を職員に伝える機会がありミーティング帳を活用し職員間で共有し会議等で運営側に伝え反映させている。	コロナ禍以降はご家族様の面会制限も解除されたため、事業所に足を運んでくださる機会が増えて、ご家族様と職員の接点も多くなってきた。ご家族様とのやり取りは面会の際や介護計画書の説明の際に意見交換する機会が多いということであった。また、遠方に住んでいるご家族様とはLINE等のコミュニケーションアプリを活用して、情報交換することもあるとのことであった。お客様やご家族様の意見の反映の一例として、お花を育てることが好きなお客様に対してベランダにプランターを準備してお花や野菜を育てる機会を設けたり、歩けるようになってほしいという要望を反映する取り組みを確認することができた。このように事業所ができることは工夫しながら行ったり、ご家族様の協力を得ながら可能な限りお客様の希望に沿った支援を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のセクション会議等で職員の意見や提案を聞き、週に1度の入所判定会議等で代表者に伝え反映させている。	管理者等の上長は日常的に職員とのコミュニケーションを大切にしている、気軽に声をかけたり、職員の声が聞こえる位置で事務作業をしたりして意見を拾う工夫を重ねている。また形式的に職員と情報共有したり意見交換する場として月に1回開催しているセクション会議がある。主にお客様の支援内容について話し合うことが多いが、運営に関する内容も議題に挙がることのあることであった。このように日常的に上長と職員が意見を交わす場があるため、風通しはよく職員も気軽に相談することができることであった。職員からの相談や意見を基にして業務効率化につながった事例として、AIセンサーの導入や食事の提供方法の変更を実践したとのことであった。これらは職員の労働環境の改善にもつながり、これからも緩急つけながらより一層職員のにとって働きやすい環境作りに向けていく方針であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等を把握している。また職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の取り組みとして職種に関係なく毎月様々なテーマの研修会が三日間開催されており、職員が必ず三日間のうちに参加をしなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し交流する機会を作りネットワークづくりや勉強会などを通じサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や契約時に要望や困っていることを聞き取り、本人が安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で家族や本人の困りごとや不安や要望を聞きスムーズにサービスが導入できるよう関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階でその時に必要としているサービスを検討し必要に応じて併設の施設にお願いすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器の片づけ等を一緒に行ったり、お茶を飲みながらくつろいだり共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に支える気持ち、家族の心も一緒に預かっているという気持ちを持ち家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親族や知人の方など2階のロビー限定で対面での面会を行っている。	コロナ禍以降、人との接触や事業所外への移動について過度な制約はなく、面会場所の制限程度であるため、関係継続の支援については再び実施できる環境が整った。実践状況についてはご家族様との関係だけではなく、お客様と幼馴染の方との関係や、昔から通われている美容室へお客様をお連れした事例を聞くことができた。今後も関係継続のための支援を実施していくが、どうしても職員だけの支援では限界があるため、ご家族や知人等も含めて幅広く協力を仰いでいく方針であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に行われる誕生会や毎日午後からのレクリエーションで利用者同士の関わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態が変わり併設の施設に異動された場合は面会に行ったり細やかに情報を伝えたり、ご逝去の時はお通夜や葬儀に参列している。入院の場合は家族以外の面会の制限があるところもあるので面会でできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際、ケアプランの立て替え時など希望や意向を尋ね把握に努めている。	ちゃんぽん等の麺類のメニューの時に具材のみの提供だったため、麺を食いたいと刻み食の方から要望があり、厨房へ麺を刻むことを依頼し、提供できている。また、通常おかゆの方がひなまつりの日のメニューにある、ちらし寿司をおかゆではなく、常食で食べたいとの要望が出たため、ちらし寿司のまま提供をする等、お客様の希望にできるだけ添えるようにしている。また、意向や思いを伝えることが難しい方は、何気ない会話の中で聞き取ったり、表情で読み取るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴を聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課を決めておらず各々が自由に過ごしており職員は利用者の心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のセクション会議や気づいた時にその都度課題やケアの在り方を話し合っており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	入居が決まった後、アセスメントを行い、暫定でのケアプラン作成、担当者会議、サービス開始、3ヶ月程たってから正式なケアプラン作成、モニタリングという流れである。必要に応じて、途中でのケアプランの見直しはある。月1回のセクション会議の時に職員が受け持っているお客様の状況等の情報交換があり、ケアプランの実行の確認は、介護職員が看護職員が行っており、職員全員でケアプランに携わっている。ケアプランはパソコンで保存され、同グループに特別養護老人ホームやデイサービス、有料老人ホーム等と共有もできるので、お客様の状況と同じようなケアプランがある場合には、計画策定の参考にできしており、同グループに様々なサービスがあることのメリットでもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間帯で特有な行動の方に対してセクション会議で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生じたニーズに合わせて介護保険外での福祉用具の貸与の利用を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月実施されている誕生会で踊りや演奏を楽しみにされている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による週1回の往診がある	主に循環器系を診る医師と一般的な内科系を診る医師に協力医を依頼し、往診してもらっている。お客様はどちらかの医師がかかりつけ医となっている。また、皮膚科、眼科、歯科、耳鼻科も往診してくれている。その他の診療科の受診が必要な場合は、基本職員が付き添うが、場合によっては家族が付き添うこともある。緊急の場合には、まずはかかりつけ医へ連絡をして指示を受け、場合によっては緊急時受入協力医院へ搬送をしている。最近はお客様の状況も安定しているので、緊急搬送はないとのことである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時も24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供とご家族への連絡を行い安心して生活できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い特養として該当した場合は異動対象になることを説明している。	入居時に「重度化対応看取り指針に対する同意書」にて同意をとり、看取りが近くなったら、再度この同意書を取り直している。この同意書には、万が一の場合には、病院へ救急搬送をする、嘱託医の指示にて治療をする、自宅へ帰る、その他の希望から選べるようになっているが、その中でも特に、救急搬送をするかどうかは、時期をみてご家族で話しあってもらい確認をするようにはしている。看取りが近くなった場合には、かかりつけ医からご家族への説明があり、かかりつけ医からの指示書に基づき、職員それぞれが支援を行っている。研修の中に看取りケアが入っており、常日頃から、職員も看取りについては学ぶ機会はある。また、看取りを行った後は、デスカンファレンスを行い、できてよかったことを振り返る機会を設けて、職員の心のケアも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED操作や蘇生訓練の研修会が全職員参加のもと実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を毎月行っている。他セクションと合同の訓練で支援の在り方を学んでいる	毎日防災チェックに基づき、ほこりがいいか等の確認をしている。また敷地内は禁煙となっており、事業所内では火災を起こさないよう常日頃より注意している。	避難訓練は実施しているが、地震や水害等を想定した訓練を実施していないとのことで、今後実施することを期待する。また、運営推進会議時に口頭で避難訓練を実施したことを報告はしているが、議事録には残してないとのことであるため、今後運営推進会議の時に報告をしたことを議事録として残すことを望む。避難経路として、ベランダを使って螺旋階段や滑り台の箇所まで移動するとのことであるが、ベランダにブランター等の物が置いてあった。いざ避難をする時の移動の妨げになる可能性があるため、避難経路の物の置き位置を検討することを望む。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの保護に努めた言葉かけや対応を心がけている。	タメ口にならないよう言葉遣いに注意をしたり、他の職員の言葉遣いで気になる場合には職員同士で注意しあっている。トイレは共用であり、車椅子をトイレ内に入れるとドアが完全に閉まらず、用をたしている姿が見えてしまうため、職員で話しあい、お客様がトイレに入っている間は、移動式の目隠しをトイレ前に置くように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人の思いや希望を聞き出せるよう努め自己決定できるような声掛けや対応を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人一人のペースや希望を大事にしているが、1日をどのように過ごしたいかの確認はしていない。また職員の都合が優先されている部分がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃りは適宜実施。散髪は2～3か月ごとに美容師が来設し実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は特養の調理と一緒に厨房で作成されており、後片付けを利用者も一緒に行っている。一人一人の好みを踏まえて食事形態を検討し楽しんで食事をしてもらうよう取り組んでいる。	食事は特養の調理と一緒に厨房で作っており、食事形態は、普通、刻み、小刻み、中刻み、ミキサー食、お米は普通、お粥、二分炊き、ミキサーと細かく対応ができています。おやつはピザ、たこ焼き、パウンドケーキ、炊飯器で作るお餅等、作業が可能なお客様が作ることが多々あるとのことである。おやつを作るタイミングは、事前に計画をしている時もあるが、お客様から作って食べたいという声があったときに、職員が対応可能な場合には、すぐに材料を買いに行き、作ることもある。ご家族様と外出をした時に外食をする方もいるが、これまで事業所として、お客様を連れて外食をしたことがないとのことで、今後は外食に行きたいという希望がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶等の水分量は計量カップにて一定量を保ち、水分量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯ブラシは毎月1日に新しいものと交換し清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後に排泄誘導を行い排泄チェック表に記録している。	リハビリパンツ使用の方がほとんどであり、排泄に関しては現状維持の方が大多数を占めている。お客様全員排泄チェックをつけているので、排泄についての把握ができています。トイレをする時にのぞかれることを嫌がるお客様がおり、汚物が下着についていないか等の確認がしづらいため、現在確認の仕方を検討中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操は日課として全員で行っている。排便が三日間ない場合は座薬を使用し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回曜日を決めて実施している。入浴前にバイタルチェックを行い振替日を設定して入浴を行っている。	入浴は午前中に1日3名程度で、週2回入れるように計画をしているが、状況に応じて週2回以上入る時もある。家庭用の浴槽であり、浴槽をまたぐことが難しい方は、シャワー浴での入浴をしている。シャワー浴でも難しい場合には、同じ棟内にある特養の機械浴を使用する場合はあるが、現在は対象者がいないとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせてベッドでの休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などその都度共有が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	エプロンや洗濯物たたみや新聞折り等、お手伝いができる方には手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には近くの図書館にやアーケード迄外出し気分転換を図っている。	コロナ禍であっても花見に行き、ご家族様との面会ができない時期でもあったため、ご家族様へは、「何時頃花見に行くので、その時間に来てみませんか」と声をかけ、少しの時間でも会えるようにと配慮をしたことがあった。これから気候がよくなるので、近所を散歩したり、お花見に出かける予定とのことである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人所持はなく事務所で預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方は伝えたい内容を聞き取りご家族様に連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には季節を感じられるような折り紙などで作ったものを飾っている	ソファや椅子の配置をユニットごとで工夫しており、お客様が日中過ごしやすい配置であった。折り紙教室で作成した作品も飾ったり、季節に応じた作品を壁紙に貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の時間の大半はリビングにて個々のペースで過ごされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作成した折り紙等や自身の誕生カードを貼り居心地よく過ごせるようなく封をしている。	以前は仏壇を持参された方もいた。家で使っていたタンスやクッション、裁縫箱やミシンを持ち込んでいる方もいる。日中はほとんど共用スペースで過ごすことが多い為、起床時にベットメイキングをして換気をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はトイレや浴室をはじめ廊下にも手すりが設置されており少しでも本人が安全で残存機能を生かした生活ができるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500905		
法人名	社会福祉法人 大村福祉会		
事業所名	グループホーム泉の里(No2)		
所在地	大村市東本町583番地		
自己評価作成日	令和7年2月3日	外部評価結果確定日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270500905-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

No2ユニットは介護サービスの見直し、職員配置の見直しのため令和6年1月から重度の要介護3～5の方々を特養に異動し閉鎖しました。「本来あるべき姿」理想的なグループホームを目指して11月に再始動しました。基本的に業務内容や特徴はNo1と同じです。比較のお元氣な方が多いのでレクリエーションでは歌を歌ったりボール遊びやカルタ取りをしたりにぎわっています。男女の分け隔てなく皆さん仲が良く食事以外でもリビングに集まり会話が弾んでいます。楽しく日々を過ごしていただけるよう職員もいろんな策を練りながら対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的には取り組めていると思うが、まだまだ実践ができていない部分があると思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年運動会(地域)に参加させていただいている。また市内の高校や専門学校等の介護実習の受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風や災害の際に避難場所として宿泊できるようスペースやベッドを用意している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催しサービス内容や課題、事故報告、内外部研修の報告等の現状報告を行い、参加者から意見をいただきサービス向上の参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大村市のふれあい相談の訪問を受け入れている。長寿介護課とは日頃から連絡を取り合い積極的に関係を構築していると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を実施し職員の意識付けを行っている。スピーチロックをはじめとする身体拘束を見逃さないよう職員同士で注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を実施し全員で虐待がないよう注意を払い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるが個々の必要性を関係者で話し合ったり活用できる場が今のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点には丁寧に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に施設携帯の番号を伝えているため必要時に連絡が取れるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度セクション会議を行い職員の意見を聞く機会を設けている。また週に一度役職の会議もあり、それぞれのセクションの問題点や課題等を含め代表者に伝える機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境や体調面に配慮した勤務形態をとってくれている。定期的に職員会議があり理事長の訓話がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはマンツーマンでの指導を行い、月に一度法人内での介護技術研修会を行っている。また法人外の研修等についても案内があり受講の機会を設け職員が自主的に受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にグループホーム連絡協議会が開催され、その中で勉強会や事例検討会を行いサービス向上への取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時点で困りごとや不安な点、要望などをお聞きしサービスの導入がスムーズにいくよう関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点で家族の困りごとや不安な点、要望などをお聞きしサービスの導入がスムーズにいくよう関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、その方に必要なサービスを考えている。併設の特養、有料老人ホーム、在宅介護支援センターの相談員やケアマネ等と連携しながら、毎週行われる入所判定会議で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの残存能力を考慮し、その方の出来ること、得意なことを把握して洗濯物を畳んだり、食器やお盆を拭いたり職員と協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や日常生活の様子を写真に撮って健康面や生活面の報告を「お便り」にて報告している。面会時に日頃の様子を報告したり家族からお話を聞き対応の参考にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も家族と行きつけの美容室に出かけたり、本人所有の船の管理を友人に頼み、時々面会で様子を聞いたり馴染みの関係の継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見ながら食事の際の席やくつろぎの時間のソファでの席を決めたりすることで利用者同士の関わりや支え合いができるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ異動しても階を隔てず職員が会いにいたり、必要に応じてフォローを行い、ご逝去された場合はお通夜や葬儀にも参列する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からご本人の意向や要望をうかがい把握に努めている。困難な場合は家族に尋ねるなどして本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態把握表を基に家族、本人からの聞き取りで生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限りご自分で出来ることはしていた だき現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが作成した介護計画を基に、その方に合ったサービス内容の提供を行い、定期的にサービス内容の見直しや検討をセクション会議などで話し合っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や介護状況表に記入する。またミーティング帳を活用し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行っている。出勤時ミーティング帳を各自が確認し業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方のニーズに合わせて介護保険外の福祉用具のレンタル等を活用し、不自由のない暮らしを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のふれあい相談員が来設し、利用者の思いや困りごとなどを聞き取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に説明し納得していただいてから決定している。その方の既往歴を見て主治医と相談し判断している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきがあれば看護職や他の職員と連携し情報の共有、主治医への連絡等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできるだけ早く書面にて情報提供を行い、入院中は病院関係者と密に連絡を取りながら情報交換や相談を行っている。また普段から関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合や終末期についての話を行うなどACPIに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を受講したり再講習を受講する等応急手当や初期対応の訓練を行っている。施設内でも心肺蘇生などの救命講習を行っている。救急搬送時に備え緊急連絡シートを作成している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練・避難訓練は毎月1度行っており、風水害については座学も行っている。また火災を未然に防ぐ取り組みとして毎日18時に防災チェックを行い、防災委員からのアナウンスも流れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳やプライバシーを尊重した言葉かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の思いや希望を聞き取り、思いや希望が表出した場合は自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその人の希望やペースに合った生活を…と考えてはいるものの職員側の都合を優先している部分がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の支援で美容室に出掛け白髪染めを行っている利用者もいる。男性の利用者は髭剃りをまめに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態で提供し状態に応じて形態の検討を行っている。また食事前の口腔体操や後片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立で食事を提供している。食事量や水分量は都度チェックしており摂取量の把握は出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。夕食後は義歯をポリドントにつける。また定期的に歯科医の往診もあり口腔内のチェック及び治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を支援している。その人の尿量に合わせてパッドの選択を行い使用を減らすよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレの際に排便の確認を行い、乳製品や野菜の摂取・散歩などを促している。またそれぞれの主治医と相談し下剤の服用や座薬の使用などの指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人の一人の希望やタイミングに合わせることはできておらず職員のタイミングになっていることが多く(曜日も時間も)個々にそった支援は出来ていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーやリビングの自席などで思い思いに休息したり夜間も安心して気持ちよく眠れるよう音や明るさに注意している。必要に応じて眠剤の利用もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師をはじめ介護職員も服薬内服容を理解し与薬の際は声出し確認と現場でのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが役割を持っていただき、その人のできることを行っていたくようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は出来ていない。家族や地域の人との協力での外出もできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は所持していないがコンビニやパンの移動販売などでお金を使う機会はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙のやり取りをしている方はいない。自分で携帯電話を所持している方はいるが家族から頻繁に電話があつて困ると話があり「職員で預かってほしい」と言われ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、使い慣れたものを持参していただくよう家族と話をし持ってきてもらっている。また季節ごとに壁面装飾を行い生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング席とは別にソファを配置し、だいたい座る場所が決まっているため隣席の方と仲良く話をしたり一緒にテレビを見たり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明で使い慣れたもの、馴染みの物を持って来ていただくよう説明をし、持っでこられている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」や「わかること」を活かして自立した生活が送れるよう支援している。		